

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(東山泉小中学校)

3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成27年2月26日	評価日	平成27年3月6日	
					評価者・組織	1st/2nd合同運営委員会	評価者(いざれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員	
1 確かな学力	基礎的汎用的能力の伸長を目指した授業づくり	学習指導要領に基づく指導案作成と公開授業	キャリア教育を通して伸長を図る基礎的汎用的能力の重要度と達成度	重要度の認識は高い。達成度は概ね評価で50%超、コミュニケーションは約70%	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上への関心は窺える。基礎基本の習得から、活用への認識は一定感じるが、探求の概念がどこまであるかは疑問。 ・本校が捉える論理的思考力のintake・thinking・outputの3要素をもとにした授業における単元構想を深化させる。 ・受動的な課題と能動的な課題の意識化、また学齢による家庭学習のあり方の提示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的汎用的能力の具体例の周知が必要か。またその手段について検討したい。 ・授業参観のあり方を工夫することが必要。 ・学習に向けての目標を自ら立て管理できるようになってきている。 ・小中一貫、5-4制の成果の公表が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西学舎・東学舎での時間をずらした同日開催、泉だよりやHPを活用し参観の意図を明確にするとともに子供の反応を保護者に知らせるべき。 ・1年で成果を図るのは拙速継続して取り組んで欲しい。”学び支援部会”として放課後まなび教室を支援。 	
	論理的思考力の育成を目指した言語活動の推進	東山泉としての言語活動と論理的思考力の定義化につながる授業展開	自分の意見や思いを正しく伝えるために筋道を整え考え方をまとめめる力の必要性	これも重要度の認識は大変高く、実現度は東学舎の評価が幾分高い。	⇒				
	家庭学習の習慣化と、学ぶ意欲の向上	校内における自学環境の整備と、家庭学習に繋がる自学ノートの充実	家庭学習の状況とその内容(宿題・自学ノート・読書)	家庭学習の実現度は西学舎の認識が70%を超え、東学舎より少し高い。	⇒				
2 豊かな心	人権教育の視点にたった道德教育の充実	道徳教育推進教師を中心とした学校づくりの推進	道徳教育の要としての学級での道徳授業、学年道徳、ステージ道徳	参観等で全学年に開いたことで一定の評価を得たと感じられる。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師とは別に道徳主任が、その役割を果たすことができた。 ・各学年の道徳授業の実践と充実は一定の成果が見られた。 ・既存の取組を生かしてピアサポートを意識した活動にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎の事件など、今後も学校・家庭・地域の連携の強化が必要。 ・教科の授業参観だけでなく道徳や総合の参観は意味が深い。 ・ピアサポートの充実を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動を基盤に少年補導委員会、民生児童委員会、保護司会等の連携、協働をより強くしていく。 ・道徳の授業参観では保護者も発言するなど、それぞれの考え方を理解していく。 ・ピアサポートの事後指導(お礼を言うなど)で自己有用感を高めていく。 	
	道徳主任を中心とした道徳授業の充実	年間35時間の道徳授業の充実と、実践的態度の育成	シラバスに基づいた各学年の実施状況の点検と学習内容	年間35時間以上の時数確保と内容、指導形態の充実と工夫に努めた。	⇒				
3 健やかな体	9学年を繋ぐピアサポート活動の充実	縦割り活動の有効性を引き出すお世話活動の実施	学校行事や日常の取組での異学年交流と縦割り集団活動	西学舎での活動が見えやすく達成度の評価も高い。	⇒				
	自律心の育成と基本的生活習慣の確立	環境教育、食教育の充実と、学齢に即した自律的実践力の育成	朝食の摂食、起床就寝、自己管理等、基本的生活習慣の点検	朝食喫食、就寝時間は西学舎の達成度が上回る。学齢による課題が見える。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢があがるにつれて朝食喫食率が低下。 ・中学校課程での食育の実践が不十分。 ・既存の取組を生かしてピアサポートを意識した活動にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食をおろそかにする児童生徒への働きかけの強化。 ・味覚指導に主眼をおいた食育の検討。 ・児童生徒の負担過多とならない部活動のあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の9学年合同開催に対する記述には必要な部分の改良が必要。 ・児童・生徒が身体を動かす場面が減ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の形式は賛否両論があるが、必要な改善をしながら継続すべき。1年でコロコロ変えるべきではない、見守っていく。 ・社会体育、体育振興会等と連携した支援に努める。
4 独自の取組	5-4制施設併用型小中一貫教育の推進	小と中、学び、二つの学舎等、様々な繋ぎの工夫と実践	東西学舎の交流の重要度と実現度	重要度は約80%、実現度は、東学舎が高いのは6年生の活動が反映。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・東西学舎を拠点としつつ6年生の西学舎での学びの場を確保した。 ・「ゆめづくり・夢創」のシラバスの再検討が必要。 ・地域の新たに開校した学校への期待を実感した。 ・交通安全に関する、地域、保護者・学校の連携のあり方に課題が見えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目は6年生の西学舎への移動頻度を減らし、5年生の交流頻度を高める。 ・「ゆめづくり・夢創」の各学年での取組の柱を全体で共通理解し、7年間の系統性を高める。 ・交通安全対策の3学区の独自性を尊重し調整を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に関して観いていて楽しい。子供が家で英語について話す機会が増えた。 ・5-4制で中1ギャップの解消を図れたのか新年度を注目したい。 ・HPは活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会でも1年目の課題を検討しながら、長い目で見守っていく。 ・地域行事で子どもが活躍し、自己有用感の向上につながる場面をつくる。
	「ゆめづくり・夢創」(総合的な学習に時間)の推進	3年生からの7学年を系統立てたカリキュラムの編成と実践	シラバスにおける7学年の系統性と学習計画の重要度と実現度	実現度は全体で50%強で前期より微増だが、周知の度合いが不十分。	⇒				
	3小学校区に渡る地域連携	開校までの統合協議会を構成する地域各種団体との連携強化を図る	学校行事、登下校時の安全への意識は高く、実現度も80%弱と高い。						

4 総括・次年度の課題

- ・3小1中学が統合し、小中一貫教育校として開校し1年が経過しようとしているが、施設併用型の学校として東西学舎をそれぞれ総括すると、西学舎は3小統合の課題、東学舎は6年生児童を迎えた学年増と小中接続の課題があつたが、東山泉小中学校として、学校教育目標、めざす子ども像、校是によるコンセプトを教職員が共有することにより、開校前の構想、計画に関しては概ね遂行することができた。
- ・H27年度は開校2年目として初めて、東学舎で1年間過ごした6年生が、学びの連続性をもって7年生に進級することで、いわゆる「中1リセット」をしない小中接続となり、小中一貫教育校の一つのメリットの検証ができると考える。
- ・東学舎においては、H27年度は7年生で1学級増、6年生1組(育成学級)に4名の児童を迎えることでの1学級増となり、各学年において学年主任による学年経営構想のもと、種々の取組の推進に努めたい。
- ・初年度に引き続き、全教職員で進める研究体制をとり、言語活動の充実による論理的思考力の育成、グローバルな視点で捉える英語力強化研究推進、自己管理能力を高める健康教育推進、生き方探究館との共同研究等の推進に努める。